

令和5年度第1回 鎌倉市スポーツ推進審議会 会議録

1 日時

令和5年11月17日（金） 午後6時から午後7時30分まで

2 場所

鎌倉武道館第1会議室

3 出席者

別添「スポーツ推進審議会委員名簿」のとおり

4 事務局

藤林健康福祉部長、小関スポーツ課課長補佐、新井スポーツ課スポーツ担当係長、
スポーツ課スポーツ担当職員（葛西、山口、松永）

5 会議の概要

小関課長補佐＝ 皆様、本日はお忙しい中、お集まりいただき誠にありがとうございます。

鎌倉市スポーツ推進審議会の事務局であるスポーツ課の小関です。よろしくお願いいたします。

皆様には、鎌倉市スポーツ推進審議会の委員をお引き受けいただきお礼を申し上げます。本来は直接、市長から委嘱状をお渡しするところですが、本日、市長は所用があり不在のため、大変恐縮ですが、机上配布に代えさせていただきましたので、ご確認をお願いします。

会議に先立ちまして、部長の藤林からご挨拶を申し上げます。

藤林部長＝ 鎌倉市健康福祉部長の藤林でございます。本日は、鎌倉市スポーツ推進審議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。また、このたびは、ご多忙中にもかかわらず、当審議会の委員を快くお引き受けくださり、心より感謝申し上げます。

さて、本市では、平成26年（2014年）に「鎌倉市スポーツ振興基本計画」の改定を行い、「Enjoy “鎌倉” スポーツライフ」をスポーツ振興のキーワードとし、様々な施策に取り組んでまいりました。

この間、「東京2020オリンピック・パラリンピック」などの開催により、スポーツに対する関心や機運が高まる一方で、新型コロナウイルス感染症拡大によりスポーツ活動が制限されるなか、スポーツを取り巻く環境や市民の価値観などが大きく変化してきておりますが、鎌倉市が目指す「健やかで心豊かに暮らせるまち」の実現において、今後、スポーツの果たす役割はますます重要になるものと考えております。

社会情勢の変化や国や県の動向などを鑑みながら、スポーツ振興基本計画の見直しを行い、本市のスポーツのより一層の推進と振興を図りたいとの思いから、委員の皆様にお力添えをお願いするものです。見直しにあたりましては、委員の皆様の知識や経験を反映させていきたいと考えていますので、忌憚の無いご意見をいただければと思っております。計画の改定及び推進にご協力をいただきますようお願い申し上げまして、私の挨拶にかえさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

小関課長補佐＝ それでは、議題に入る前に、「会長の選任」について報告申し上げます。

スポーツ審議会条例第5条では、「会長及び副会長は委員の互選によって定める」となっております。また、同条例第6条において「審議会の会議は、会長が必要に応じて招集する」となっております。

本日の会議の開催に先立って、会長を選任しておくことが必要であるため、事前に、各委員の皆様の意見を聴取した結果、多数の委員より小川幸代委員を会長に推薦するご意見を頂きました。小川委員の了承も得られたため、正式に会長として選任させていただきましたことについてご報告申し上げます。

これから先の進行につきましては、本来は会長にお願いするところですが、本日、小川会長よりご連絡があり、体調悪化のため、会議を欠席するとの話をいただいております。

会長不在の際は、副会長が会長の職務を代理し、議事その他の会務を総理することになりますので、本日の会議の進行に先立ち、鎌倉市スポーツ推進審議会条例第5条の規定に基づき、委員の互選により副会長を選任していただきたいと思います。

副会長が選任されるまでの間は、事務局が進行を務めさせていただきますが、よろしいでしょうか。

それでは、副会長の選任について、御意見ございましたらお願いいたします。

～ 事務局一任の声 ～

小関課長補佐＝ いま「事務局一任」という声があがりましたが、他に意見はありませんか。

特になければ、事務局といたしましては、公の施設管理に従事され、行政の立場からの視点で実情に精通されている名取委員にお務めいただきたいと思いますがいかがでしょうか。

小関課長補佐＝ それでは、副会長は名取委員に決定ということでよろしいでしょうか。

ありがとうございました。条例第5条第4項では、副会長は、「会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。」とありますので、今後の進行は名取副会長よろしくをお願いします。

名取副会長＝ 副会長に就任いたしました名取でございます。鎌倉市スポーツ審議会条例に則り会長の代理として議事進行をさせていただきますので、よろしくお願いします。

議事に入る前に事務局からの確認事項等がありますか。

小関課長補佐＝ まず、会議の成立についてご報告いたします。鎌倉市スポーツ推進審議会条例第7条では、「審議会は、委員の総数の過半数が出席しなければ議事を開くことができない」となっております。本日は委員10名のうち、9名のご出席をいただいておりますので、会議は有効に成立していることをご報告申し上げます。

次に審議会は原則、公開としていきたいと考えており、昨日まで市HPで傍聴の募集をしていましたが、本日の傍聴を希望される方はいらっしゃいませんでした。

最後になりますが、議事に先立ちまして、本日の配布しております議事資料の確認をさせていただきます。

資料1 策定スケジュール

資料2 鎌倉市スポーツ振興基本計画改定資料

資料3 アンケート素案

名取副会長＝ それでは早速議事に入りますが、「議題2 策定スケジュール」について、事務局から説明をお願いします。

事務局：新井係長＝ 資料1をご覧ください。鎌倉市スポーツ振興基本計画の改定に係るスケジュール案になりますが、審議会は今回を含め、年度をまたいだ来年度の5月までの間に、5回ほど開催し、改定作業を進めてまいりたいと考えています。市民やスポーツ施設利用者等の声を十分に反映した改定を行いたいと考えているため、今後、アンケート調査を実施し、その結果を踏まえて方向性を見定め、それに沿って改定素案等の策定作業を進めていく予定です。1月に開催を予定しています第2回審議会までに、アンケート結果を集約し、委員皆様のご意見を頂戴する中で、改定の骨子・方向性を確認し、その後、確認いただいた方向性に沿って「改定素案」を作成し、第3回審議会で、当該改定素案を正式な諮問案として本審議会へ諮問させていただきます。その後、年度内を目途に第3回及び第4回の審議会でいただいた意見を踏まえた「パブリックコメント案」を作成し、来年度4月にパブリックコメントを実施したうえで、「最終案」を作成し、5月の第5回審議会においてお示しする中で、計画案に対する答申をいただき、5月末までに改定計画の確定をしてまいりたいと考えています。策定スケジュールについては以上です。

名取副会長＝ 説明ありがとうございました。ただ今の説明に対して、ご質問、ご意見等があればこの場で伺いたいと思います。

委員の皆様いかがでしょうか。

若木委員＝ 少し計画が拙速すぎるのではないかという気がしている。平成26年3月に策定した改定版の中に「スポーツ振興基本計画の確かな実現に向けて」という項目があり、その中で「これをきちんと評価します」という文言がある。アンケートと鎌倉市の意見公募手続条例だけの話ではなく、平成26年度の改定計画の評価をきちんとすることが必要だろうと思う。

もう一つ、現計画の中には「拠点づくり」が盛り込まれている。深沢で計画されている新しい施設計画や、鎌倉市がかつて出した公共施設の再編整備計画があるが、こういったものを総合的にどう計画していくのか、これが諮問事項に入ってくるのかどうか確認していないが、諮問事項に入っていないとすると、その点は片手落ちではないか。いずれにしても来年の6月までに作成するというのは少し急ぎすぎのような気がする。

新井係長＝ 施設の話に関しては、今回のスポーツ振興基本計画の見直しを行った後に、あらためて深沢地域でのスポーツ施設整備に係る基本構想、基本計画等について、このスポーツ推進審議会にお諮りをする予定でいる。

施設の話に入る前に、まずは、スポーツ振興基本計画、すなわち本市のスポーツ施策の方向性を固める必要があるとの思いから、このスケジュール案をお示ししている。

若木委員がおっしゃるとおり、本来はじっくり時間をかけて見直しをする考え方もあろうかと思うが、事務局としては、先ほどから話に出ている、計画見直しの後の施設整備等の検討も視野に入れ理想的なスケジュール案を示していることを理解してほしい。今後、意見をいただく中で、時間をかけなければならない場面もあるかもしれないが、このスケジュール案は順調にいった場合の理想形、そしてこの後に続く施設整備

の構想なども視野に入れたスケジュール案として提示していると考えていきたい。

若木委員＝ これは個別計画に位置付けられる。鎌倉市の総合計画の個別計画であり、単独で動くものではない。そうなってくると、鎌倉市の関連部局、市長部局、教育委員会等々とのすり合わせなども必要になってくると思う。急ぎたいのはよくわかるが、総合計画の個別計画に位置付けられているということを十分に考慮した上で進めていただきたいと思う。

小関課長補佐＝ このスケジュール案は理想形でトントン拍子にいかばいいのだが、作成を進めていく上で、熟考しなければならない部分などがでてきた場合は、スケジュールが少し後にずれる可能性もあり得るということを改めて認識した。その都度、委員の皆様と相談しながら計画の見直しを進めていきたいと思っているので、よろしくお願ひしたい。

河田委員＝ 平成 26 年度の改定時には我々もその場にいた。で、また同じことをするのか。また同じことをやってどうするのかという思いがする。市長は深沢に総合体育館・総合グラウンドをつくと約束をしたので、委員としての私の仕事は終わったと思っていた。だから 26 年度に改定した計画も、もういらないだろうと破棄した。また同じことをやるのか、いつになったら市の小中学校の大会ができるような総合体育館ができるのか。

いつもスポーツ課に行って何をしてきたんだと言われるが、もう 20 年になる。同じことをまたやるのか。総合体育館、総合グラウンドはいつできるのか。

反省と評価が必要であり、アンケートをして市民に何を求めるのか。我々は市長が総合グラウンド等をつくり、総合体育館をつくり出すというのを聞いてきた。もうちょっと待ってくれたらと市長も約束してくれたと言ってきたが、あと何年待てばいいのかということだ。もう少しスポーツ課が、こうするんだと前向きな予定を立てていただきたい。今さらアンケートをしてどうするんだという話である。

新井係長＝ スポーツ振興基本計画はいったん作って終わりというのではなく、鎌倉市のスポーツ活動、スポーツ振興の基盤整備などの方向性をまとめて、計画期間、現行でいうと令和 7 年度までの計画として定めているものである。この計画期間の評価というものはきちんとしていく必要があるものと今意見を聞いて思ったが、ただこの計画は繰り返しになるが、改めて社会環境の変化などに沿った見直しをしていく必要があるものと理解してほしい。この計画は深沢などの特定の施設整備のためだけのものではなく、市民の皆様がどれほど運動・スポーツをしているか、その実態をアンケートなどで調査し、運動・スポーツなどをしていない人たちなどをどうやって巻き込んで市民の健康増進につなげいけばよいかなど、鎌倉市のスポーツ振興のあり方、課題を探り、政策としてまとめるものである。一見、同じことのように見えるが、期間をあけてアンケート調査等をする意義は大きいと考えている。この計画の見直しを行い、しっかりと今後の方向性を見定め、次に、深沢の施設整備の在り方などの議論につなげていきたいと事務局では考えている。

藤林部長＝ 深沢地域の総合グラウンド、総合体育館の話はいただいたが、当初の計画としては、本庁舎を令和 10 年に深沢地域に移転しようということで進めてきた。しかし、条例案が市議会で可決に至らなかったこともあり時期がずれてきており、仮に今可決いただいたとしても、本庁舎の移転は早くても令和 12 年以降になってしまう状況にある。本庁舎の隣りに総合体育館、グラウンドをつくって、いこうという計画になっているが、まず本庁舎を整備した上で、その後、グラウンドなどの整備をしていくという流れになる。

今後の施設の整備については、整備に関する基本的な構想や、基本計画を定めていく必要があるが、その施設関連の計画に先立って、鎌倉市全体のスポーツ振興の基本的なあり方、考え方をまずは固め、その次に、今後、総合体育館、総合グラウンドに限らず、鎌倉市のスポーツ施設のあり方を検討していきたいと考えている。

指摘の通り、かつて作成したものをまた見直すのかという意見もわかるが、スポーツを取り巻く環境も微妙に変化してきているので、市民の皆様の考え方やスポーツへの取り組み方などを伺い、現実に即した実態に沿った計画に改定していきたいと思っている。アンケートについては、スポーツ施設を利用している人だけでなく、むしろスポーツにあまりなじみのない市民の方々の声を聞く中で、鎌倉市のスポーツ振興のあり方を探っていきたくて考えて実施するということを理解いただきたい。

新井係長＝ 他の自治体の計画においても、要望の聞き取りではなく、市民の皆様がどれほど運動・スポーツをしているのか、していないのか、どういった環境があれば、多くの方が運動・スポーツになじむことができるのかなど、まずは同様のアンケートを行い実態把握をしたうえで計画の見直しを行っていることを補足させてほしい。

河田委員＝ 私の記憶では、前回のパブリックコメントや基本計画の中では、令和 14 年までには、総合体育館、グラウンドはできていますよという計画だった。計画はどんどん変えていくのは常だと思うが、パブリックコメントや基本計画の中で策定したのにその評価はどこへいったのか。今の部長の話では、市役所の移転の話が出てきたので、従前の計画は宙に浮いたということになるが、それは我々スポーツ関係者はわかる

が、一般の市民にはわからない。基本計画の中で、その辺の前回の計画の評価をして、反省をした上で、次の見直しはこうなるという易しい説明をしないと、市民の反感を買うのではないか。何のためのパブコメだったのかということになってしまう。あまり拙速にならずに、今までの計画が遅れているのはわかるが、そのあたりをもう少し熟考してもらいたい。

新井係長＝ 確認になるが、現在の計画では、いついつまでに総合体育館、グラウンドをどこどこに整備していくとは明言していない。総合体育館、グラウンドについては、現計画では、中長期の取組みとして「中長期的視野に立った取り組みを進めます」としているだけであり、具体的なパブコメもしたことはない。

しかしながら今回の見直しでは、場合によっては、そういった施設整備のあり方についても、今よりさらに踏み込んだ検討、表現ができるのではないかと考えている。

加藤委員＝ これからのスポーツということであれば、JRの跡地がメインになってくると思うが、話を聞いていると少しずつ変わっている気がする。グラウンドがサッカーとラグビーが使うと言ってみたり、ちょっと少なくなってきたり……。そういった話を聞くが、そういうのは我々には伝わってこない。どこかで消えてしまったみたいな話になっている。だから、今はこうなっているというような情報を流してほしいと思う。それがないから、皆さん、どうなっているのかと……。スポーツ協会では、グラウンドに関して、どうしてほしいというまとめを出しているが、現時点で、それがどうなっているのか情報がないから不安になる。そんな中で、実際の計画は進んでいくわけである。我々としてはせっかくここまでやってきたのに、変わってしまうことが疑問である。団体にある程度の情報を流してもらわないと、不安や疑いの気持ちが強くなる。是非、情報を流してほしいと思っている。

新井係長＝ 施設整備に関しては、たしか平成30年度に検討部会を立ち上げて検討案をまとめていただき、市が受け取っている経過がある。本来はその流れを汲んで議論を継続していくべきだった。また、市としても行政計画にしっかりと位置づけていくべきだったと思うが、それがないまま、時間が経ってしまったというのが事実である。皆様からすれば、スポーツ協会が出した検討案はどうなったんだという気持ちになってしまうと思う。正直に言えば、水面下で当時の検討案に対して何か具体的な動きがあったということもなく、検討を全く進めてこなかったために、皆様に流すべき情報もないというのが事実であった。

今後、このスポーツ振興基本計画を改定した後、施設の構想をまとめていきたいと思っているので、その中で、施設に関して皆様と情報を共有していきたいと考えている。

加藤委員＝ 今まであった鎌倉体育館と大船体育館は全部なくしますよという話がある。それでいいのかなと思う。深沢地域に集中させてしまっているのかということに危惧している。地域性もあるので、何らかの形で残すことはできないのかという思いもある。市長にもそういう話はした。小学校などの体育館を使うといった代替案がでてくればよいが、ただなくなってしまうよというのは……。皆、やはり近い所に行きたい、そういう所がなくなってしまうのを皆心配している。

河合委員＝ 鎌倉市は施設がさほど充実しているとは言えないと感じているが、今日の審議会では、スポーツ振興基本計画を改定する必要があるため集まっている。だから深沢地域の総合体育館、グラウンドのことよりも、まずはもっと大きい、鎌倉市全体のスポーツ振興のあり方について、考えようというスタンスでよいか確認をしたい。

新井係長＝ まさに、今回の審議会では、スポーツ施設のあり方だけをまとめる審議ではなく、鎌倉市のスポーツの振興のあり方全般についての審議をお願いしたいと思っている。社会情勢も大きく変わってきているので、時代に合った、スポーツの考え方をまとめた上で、その中で、次に、鎌倉市の施設はどうあるべきかということとその後に検討していただきたいと思っている。まずは河合委員の言う通り、鎌倉市全体のスポーツのあり方についての議論をいただきたいと考えている。

名取副会長＝ スケジュールについては、委員の意見を踏まえて実態に即したものにしていこうということによっていでしょうか。

他に意見がなければ、次に、「議題3 鎌倉市スポーツ振興基本計画の改定について」に入ります。

事務局から説明をお願いします。

事務局：新井係長＝ 「議題3 鎌倉市スポーツ振興基本計画の改定について」、基本的な考え方について説明申し上げます。資料2をご覧ください。

まず、「1 改定の背景」ですが、現在の「鎌倉市スポーツ振興基本計画」は、平成26年（2014年）に改定したものであり、改定後、9年が経過しています。計画期間は令和7年（2025年）までですが、記載のとおり、運動・スポーツを取り巻く環境が大きく変化をしており、市民にとってのスポーツの重要性も日々増していることから、さらなるスポーツの振興を図るために、一年前倒しで改定作業を進めたいと考えています。

なお、現在の基本計画については、委員の皆様にご送付させていただいておりますが、めざすべき市の姿を「Enjoy “鎌倉” スポーツライフ」とし、「スポーツ活動の振興」と「スポーツ振興の基盤づくり」

を施策の二本柱として構成されております。

次に「2 計画の位置づけ」、スポーツ振興基本計画は、スポーツ基本法に規定する「地方推進計画」になりますが、今回の改定は、昨年、国が第3期「スポーツ基本計画」を策定し、それに伴い神奈川県スポーツ推進計画の見直しがなされたことを踏まえた改定となります。また、スポーツ振興基本計画は、高齢者保健福祉計画や子ども・若者育成プランなどの個別計画と連携し、上位計画である鎌倉市の総合計画・基本計画を下支えしていくという位置づけになります。

「3 計画の期間」については、令和6年度（2024年度）から令和15年度（2033年度）までの10年間としますが、必要に応じた見直しは適宜行っていきたいと考えています。

続いて、スポーツ振興基本計画において、スポーツをどう捉えていくかという「スポーツについて」ですが、本計画では、スポーツの範囲を広く捉え、競技スポーツだけではなく、健康維持や仲間との交流、レクリエーションなど多様な目的で行う身体活動も含めていきたいと考えています。

また「する」スポーツだけではなく、スポーツを「みる」、「ささえる」という活動にも焦点をあて、本市のスポーツ振興を図ってまいりたいと思っています。

最後になりますが、鎌倉市の全施策の方向性とも関わりますが、改定にあたって取り入れるべき新たな視点について説明申し上げます。まずは（1）SDG sとの関係ですが、鎌倉市は、平成30年（2018年）6月に、国から「SDG s未来都市」に選定されており、SDG sの視点に配慮しながら、様々な施策を実施しております。

スポーツの分野も例外ではないため、SDG sの達成に寄与するスポーツ振興を図っていくことが今後重要になるものと思っております。

次に（2）スポーツを通じた共生社会の実現です。鎌倉市は、それぞれの多様性を認め、お互いを思い、誰もが自分らしく、安心して暮らすことのできる「共生社会」の実現を目指し、さまざまな分野において、共生意識の形成を図りながら、共生の地域づくりを進めています。今後のスポーツ振興においても、この視点に十分配慮していくことが重要であると考えております、以上で説明を終わります。

名取副会長＝ ありがとうございます。ただいまの事務局の説明に関して、ご質問やご意見等はございませんか。

若木委員＝ スポーツについて、e スポーツを鎌倉市ではどう捉えていこうとしているのか。

二つ目は、SDG sは17の視点があるが総花的である。この中で3番目にある「全ての人に健康と福祉を」とか、14番目の「海の豊かさを守ろう」とか、そういうようなものを目指しますという方が、より有意義ではないかと思う。17の目標は非常に多岐にわたっているんで、どれでも当てはまってしまうというようなことがないように配慮して頂きたいと思う。

新井係長＝ SDG sの視点については貴重なご意見として伺っておきたい。今後、基本計画の改定を進めていく上で十分に参考にさせていただきたい。

最初の質問、e スポーツについては、今現在は、市として明確にスポーツに位置付けているかと言うと、そうはなっていない。ただしスポーツを取り巻く環境が変わってきている中で、今後、e スポーツを取り込んでいくべきかどうか、まさに委員の皆様の議論を頂ければと思っている。

名取副会長＝ 他にご質問やご意見等はございませんか。なければ、「議題4 アンケートについて」に入ります。事務局から説明をお願いします。

事務局：新井係長＝ 「議題4 アンケートについて」について説明申し上げます。

スポーツ振興基本計画の改定に先立ち、18歳以上の市民を対象に、運動・スポーツに関わる状況、スポーツの推進に対するお考えなどをお伺いし、改定のための基礎資料とするために、アンケート調査を実施したいと考えております。市民の皆様の中から2000名を無作為に抽出し、アンケートのお願いをいたしますが、アンケートの回答は、e-kanagawa 電子申請によって頂く予定です。

それでは資料3をご覧ください。アンケート案になります。問の後ろに※印がある項目は、現基本計画の策定時に実施したアンケート調査でも用いている設問ですが、経年変化をつかむために、基本的に前回の設問は今回のアンケートに引き継いでおります。

まず、問1から問5の「ご自身について」で、回答者の属性について伺います。

次に、問6から問8の「運動やスポーツの実施状況について」お聞きし、運動・スポーツをする理由や頻度、場所等を伺います。

続いて、問9～問13の「スポーツとの関わり方について」では、スポーツイベント等への参加状況、新型コロナウイルスの影響、スポーツへのサポート活動などについてお伺いします。

さらに、問14の「みるスポーツについて」、問15から問17の「パラスポーツについて」、問18の「子

どもの運動・スポーツについて」では、それぞれについて、取組み状況やご意見・考え方などを伺ってまいります。

最後に、問19～問23の「鎌倉市におけるスポーツの推進について」では、スポーツ情報や、市が特に力を入れて取り組むべき分野、スポーツ振興に期待すべき効果などを伺います。以上で説明を終わります。

名取副会長＝ ありがとうございます。ただいまの事務局の説明に関して、ご質問やご意見等はございませんか。

若木委員＝ 前回のアンケート調査では、2000人を住民基本台帳から無作為抽出して結果700人ほどの回答があった。郵送でやった経過がある。今回も同様に住民基本台帳から抽出すると思うが、アンケート用紙にQRコードなどを入れておいて、それで回答させる方法なのか。

前回は一般社団法人に業務委託をしたが、今回はスポーツ課の職員でやるのか。

3点目は、年齢構成だが、「70歳以上」というくくりになっているが、「70～79歳」、そして「80歳以上」というくくりの方がより鮮明になってくると思うが。

新井係長＝ 一点目は、e-k a n a g a w aの電子申請システムを使うので、QRコードを入れて皆様に回答いただく予定である。

二点目は、今回のアンケート調査は、外部委託はせずに、スポーツ課で実施してく予定である。

三点目の年齢の分けについては、参考にさせていただきたいと思う。

若木委員＝ 何で私が「80歳以上」と言ったかという、鎌倉市健康づくり計画の中で、鎌倉市の男女の健康寿命84歳、平均寿命87歳となっているからである。同じ鎌倉市がつくっているものだから、そういう視点からも、そういうくくりの方がいいのではないかと思う。

加藤委員＝ 「鎌倉市におけるスポーツの推進について」という部分があるが、深沢地域にできるということは決まっているので、それについての意見や要望、そういったものを一つ、アンケートに入れた方がいいのではないかな。もう目の前に来ているわけだ。できるのは10年先かもしれないが、そういうのはあった方がいいのではないかな。深沢で整備していくことは決まっているので、そこでこういう整備をしてほしいという希望や意見を聞く方がいいと思う。

新井係長＝ 事務局としては、先ほどから説明している通り、スポーツ振興基本計画を策定した後に、深沢地域につくる新たなスポーツ施設について、あらためて施設の基本構想をまとめていく段階で、市民の皆様の意見をきく機会を設けて、違った形で丁寧に意見を伺っていきたいと思っている。

先ほども説明をした通り、スポーツ振興基本計画の中では明確に深沢地域に総合体育館、グラウンドをつくることは記載されていないため、流れ的には唐突に深沢での施設の話聞いても、逆にわかっている人にしか伝わらない感じがしている。繰り返しになるが、スポーツ振興基本計画の中では、具体的な施設の話よりも、まずはスポーツの全般的な考え方を伺い、市民の皆様のスポーツに対する向かい方や姿勢などの実態を捉えたいと思い、このアンケート案を作成したことを理解いただきたい。

加藤委員＝ でもこれが先に出るのではないのか。市民の人はこの後に施設の意見を聞くなどわからないではないか。だからちょっとだけでも入れておいた方がいいと思うが。

新井係長＝ 今回のスポーツ振興基本計画の中で、市民意見も聞きながら、深沢地域で総合体育館、グラウンドをつくっていくという方針を明らかにする。その上で、次に、計画に沿って施設建設をする場合、どういった施設にすることがよいか、あらためて市民の皆様のご意見を聞く。今回は、深沢での整備ありきではなく、いまの市民の実態はどうなのかについてアンケート調査し、その結果によって、深沢地域で新しいスポーツ施設を整備するという、まさに計画に位置付けていくための調査であることを理解してほしい。その方針が決まる前に、深沢ありきでの施設要望を聞くのは、事情を知っているスポーツ協会の団体の方々の理解はいただけても、逆に一般の市民の方には伝わらない気がする、あらためて会長とも相談し検討させてほしい。

名取副会長＝ このアンケートは、12月には実施していきたいということか。

新井係長＝ アンケート案が固まり、発送の準備ができ次第、すみやかにアンケートを実施していきたいと思っている。12月早々に予定ではアンケートを開始したい。今いただいた意見に関しては、事務局として整理した上で、再度皆様にお示したした上で、最終案を固めていきたい。加藤委員の話に戻るが、いまのスポーツ振興基本計画では、施設の具体的な話は計画には示されていない。また、見直しに関しても、スポーツ振興計画は市のスポーツ施策全般についての方針を定めるものであるため、具体的な施設の構想を載せていくことは難しいと思っている。だから、施設に関する具体的な市民の意見や要望は、施設の基本構想を定める段階で聞く予定でいるが、いまの段階のアンケートで聞くとするならば、どのようなアプローチで聞くことになるか、事務局としてはイメージがわからないので、もし考えがあれば聞かせてほしい。

加藤委員＝ 市民に聞くわけだから、それほど詳しい細かいことはいらなと思うが、例えば、どれくらい

のものをつくってほしいとか、そういう意見、要望があればちょっと言えるようなイメージだが。

新井係長＝ 直接的な回答にはならないかもしれないが、アンケートには自由記述の欄も設けてあるので、ご意見や要望があれば、そこで記述してもらおうということもあるのかなと思っている。

加藤委員＝ 鎌倉市におけるスポーツの推進なのだから、目の前にある深沢地域の総合体育館などの名称が何も入っていないと意味がない気がする。深沢のＪＲ跡地に体育館をつくるので、それについての希望があればという聞き方をしないとわからないのではないかな。

新井係長＝ 深沢のＪＲ跡地に体育館をつくるということは、今回、計画を見直す中で正式に計画に定めていきたいと考えているが、計画の中に位置付ける前に、その前段階のアンケートで「深沢に体育館をつくる」ということは、我々としては、整合がつきにくいと考えている。そのあたりを整理させてほしい。

高橋委員＝ 今、中学校では、部活動の地域移行がどうなっていくのか、子どもたちも教員自身もよくわかっていないことがある。平成２６年度のスポーツ振興基本計画改定の際は、そのような話はまるでなかったと思うが、今はそういう話がでてきている。先日、神奈川県が主催した部活動の地域移行の連絡会議に出席したが、市長部局のスポーツセクションが進めている自治体もあったが、アンケートなり、スポーツ振興基本計画なりに、そういった課題も織り込んでいくというような考えはあるのか。

新井係長＝ どういう形で部活動の地域移行をやっていくかは、これから計画の見直しを行っていく中で、皆様のご意見を伺いながらまとめていくことになる。市としても、今後のスポーツのあり方を考えていく上での大きな課題と捉えているので、何らかの形で踏み込んでいくべきものと考えている。

加藤委員＝ 部活動の関係もだいぶ変わってきている。鎌倉の場合は施設が少ないこともあり、学校をいかに有効に使っていくかということを考えてもらわないと、身体を動かせる場がないということになってしまう。現状では、中学校の校長の考え一つで、開放はだめだということもできるらしい。例えば、大船中学校のテニスコートを作るときには一般に開放しますよという形で進めてきたにも関わらず、いざとなったら校長の考え一つで開放はしないと、そういった話に・・・、校長の意思・意向で決められてしまうという話を聞いた。市民も知らないうちにそうなってしまった。何かおかしいと皆言っている。鎌倉は施設が少ないのだから、学校を活用していくことが必要で、学校に空きがあるのであれば、有効活用ができる方策を考えてもらえればありがたい。

新井係長＝ 鎌倉市では学校開放に関する規則に則って、小中学校の校庭、体育館を最大限に活用させてもらっている。登録団体もかなり多くなり、常に平日の夜間や土曜日曜はいっぱいという状況である。中学校に関しては部活動があるので、土日の日中使うのは難しい面もあるが、最近はそれでも少しずつ中学校の校庭や体育館の一般利用も増えてきているところである。基本的には、開放の規則に基づいて運用しているが、確かに学校の校長の考え方で多少ではあるが運用面に差が出ている実態もあることは実感している。我々は教育委員会の補助執行として学校開放をやっているので、その辺については、教育委員会とあらためて協議して、開放のあり方をきちんと考えていきたいと思っている。大船中学校も、地域のために開放することを想定してあの学校が整備されたという話しは我々も聞いているので、もちろん本来の教育目的を妨げない範囲ではあるが、最大限に有効利用できる方向性について、教育委員会と意見交換してまいりたい。

河田委員＝ それに付随した話になるが、先ほど加藤委員から、市内の体育館をなくしてしまうという計画は再考した方がいいという話があった。前回の計画改定のときは、そんな話はまったくなかった。まさか、こんなことになるとは思わなかった。そのような状況であるからこそ、学校体育館を、学校体育から市民体育の方に広めていく方策も、計画の中では考えていかないといけないのではないかなと思う。

河田委員も私も高校野球や中学校の指導をやっている。指導というのは大変な仕事であり、これが学校の先生の手から離れてしまったら、市民がどうやって指導をしていくのか。スポーツ推進委員としては、県の考えを伺っているところであるが、県の方もまだ全然どうしたらよいか、手をこまねいている状況である。

今後、だんだん時代が変化していくと、学校の先生も立場がなくなっていくのではないかな。せっかくの生徒と接する機会がなくなってしまうことになるのではないかなと思う。

河田委員＝ 外部指導者の話は、全国的には大きな課題になっているが、鎌倉市は積極的に動いていないようである。確かに教員の負担を軽減するにはよい制度だとは思いますが、ただ誰がやってもいいというものではなく、野球であれば、ただ野球だけを教えればいいのかではなく、組織的に野球の大会を運営していくことが必要になるが、それはやはり教員の仕事になるのである。外部指導者を利用するにしても、そういう運営の問題が出てくるので、結局は教師の関わりざるをえないものと思っている。なかなか割り切れない問題である。また教員でない人間が指導するので、子どもや親に対して暴言をはくなどの問題も出てきている。そういったことも考えると、簡単にはいかないと思っている。ただ、そうは言ってもやっていった方がいいのではという気はしている。外国みたいにクラブ化して、学校から少し離れたものにして、教員が全部みるのではなく、学校のクラブではなく、地域のクラブに移行していくような形がよいのではと個人的には思っている。

加藤委員＝ 施設面でアンケートに絡む内容だが、平成26年度のスポーツ振興基本計画の中に拠点づくりという部分がある。今、学校開放の話があったが、今の小中学校の体育館はどんな現状なのか、空調のきく学校はない。またトイレも和式がメインである。今年の夏は本当に暑かった。何事もなかったからよかったものの、いつ何が起きても不思議ではない状況である。なのでアンケートの中に、鎌倉市内の小中学校などの施設面の問いかけが必要になるのではないかと。夏の体育館の暑さはすさまじいが、スポットクーラーは基本的に防災課のものである。開放では利用できないことになっているので、そういう施設面のアンケートは、拠点づくりという視点でも必要になってくるのではないかと思う。

新井係長＝ 施設面の問いかけについて、委員の皆様が必要ということであれば検討はするが、夏の体育館に冷房は必要ということは、アンケートで実態調査をするまでもなく、審議会の議論で結論づけていくべきという考えもある。無作為で選ぶ市民の大多数は、学校開放利用をしたことがないと思うので、どんな聞き方をすればいいかなど、具体的な意見を伺いたい。

今回のアンケートは、スポーツになじみがない人を想定しているので、いわゆる今後、施設の基本構想の策定のときに行う、施設利用者対象のアンケートとは切り分けが必要になるのではと感じているが、何か助言があれば伺いたい。

河合委員＝ アンケートの問10に、利用をしたことがあるスポーツ施設はあるかという設問がある。そこに学校体育施設もあるので、そこで付随した設問を置くことも手ではないかと思う。

新井係長＝ 貴重な意見として参考にしたい。他の委員の皆様はどうか。この場ではなくても、審議会が終わった後でも意見やアドバイスをもらえれば、ありがたい。

若木委員＝ アンケートを出す前に誤字脱字のチェックはもう一度するように。例えば、問9に「スポーツ協会も含む」という記載があるが、「スポーツ協会なども」という表現にした方がよい。スポーツ協会のほかにもいろいろ団体があるので、最終的に精査した上で出してほしい。

新井係長＝ 今指摘された細かな点等についても十分に精査した上でアンケートを実施していきたい。

若木委員＝ 今、各委員が指摘したものについて再度検討した上で、案を練り直し、12月にまた我々に送った上で、1月頃にリリースしていくようになると思うが、やはり拙速な気はする。

新井係長＝ アンケートの実施については、方向性としてご理解いただいたが、細かい内容については、再度、皆様にお示しした上で実施していきたい。

名取副会長＝ 最後に、「議題5 その他」として、事務局から何かありますでしょうか。

小関課長補佐＝ 次回の日程は1月頃に審議会を開催したいと考えている。あらためて皆様と日程調整させていただく。12月にアンケートを実施する前後に、会長と調整をした上で、再度、皆様に投げかけさせてもらう。

藤林部長＝ 連絡事務になるが、スポーツ施設に関する情報提供をさせてもらいたい。深沢の多目的スポーツ広場の暫定利用をしてきたが、深沢地域の土地区画整理事業の事業認可が下り令和6年度から土地区画整理事業がはじまる。そのため深沢多目的スポーツ広場が使えなくなるので、山崎浄化センターを整備して、令和6年2月から、スポーツや地域のコミュニティ活動の場として開放していく予定で事業を進めている。広さに関しては、深沢の多目的スポーツ広場に比べて3分の1程度になってしまうので、これまでのような利用はできないが、今、各団体に対する説明会を行っているところである。鎌倉市のスポーツ施設に関する情報提供として、披露させていただいた。

若木委員＝ 一つお尋ねしたい。名取副会長に聞きたい。神奈川県がスポーツ課がプラットフォーム型の事業を始めた。その進捗状況について情報共有してほしい。

名取副会長＝ 詳細までは把握していないが、スポーツ課の方でプラットフォーム型の事業ということで、スポーツをテーマに、企業と連携をとっていきたいということで手をあげてもらっている。企業だけではなく自治体なども対象になるが、80団体を超えている状況でかなりの数の参加をいただいている。かた苦しい会議ではなく、担当者同士が集まって、何かを進めていこうよという感じで、11月頃に集まり動き出す予定と聞いている。まだ具体的にどのように連携していくかまではいっていないが、いろいろな団体がいろいろなアイデアを持ち寄って、スポーツの振興ができていけばよいと考え、スポーツ課が中心となって進める事業と伺っている。

若木委員＝ 自治体で手をあげている所はあるのか。

名取副会長＝ すぐに自治体の名前は出てこないが、企業はいろいろな分野から手があがっていると聞いている。

若木委員＝ 鎌倉市はどうなっているのか。

新井係長＝ 各自治体がこの中に入っていると理解していた。5月ごろに、プラットフォームを立ち上げますよという案内が来て、その中で、ご入会いただけますかと聞かれた。こちらとしても、いろいろ連携がと

ればありがたく、断る理由はないので、入会を前提にアンケートにはお答えしている。特に手続き等はないと聞いていたので、11月の会議の案内も来ているので、参加しているものと考えていた。

名取副会長＝ 申込みなど詳細までは把握していないが、もう案内は来ているのですね。

新井係長＝ 自治体としても企業や大学などと連携し、いろいろなセクターの強みを取り入れたスポーツ振興ができればありがたいと思っている。

名取副会長＝ 委員の方々から何かありますでしょうか。なければ、これにて審議会を閉会いたします。本日はお疲れさまでした。